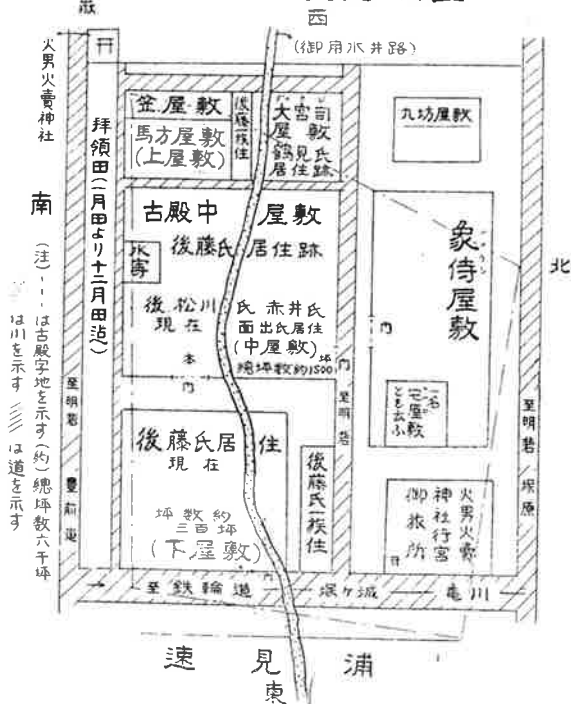


関係で大伴一族の大伴旅人等もこの屋敷に立寄つた事と考察出来る。後藤氏は安永の頃故あつて中屋敷退転し、杵築松平公に仕官した。後年此の古殿下屋敷に帰郷して今は後藤勘六氏が相続している。安永の末に、中屋敷に松川氏転居して明治の頃迄続いたが断絶した。昭和の始め赤井氏、現在面出氏が居住する。其の度に屋敷の内形も變つたが、広大な敷地を包む石垣と武家門の跡は昔を物語っている。

(住所、別府市火売区四組)

古殿屋敷見取圖



(住所、別府市火売区四組)

新著紹介

立川 輝信

河野清実著
酒井富藏編
朝來村郷土史

本書は本県文化財調査委員であつた著者が生前郷土の爲めに著された原稿を義弟酒井氏が村民の依頼によつて編輯したもので、一、六郷満山の時代、二、武家勃興の時代（鎌倉、吉野、室町、桃山期）三、杵築藩時代（村の政治と経済、郷賢）四、明治維新以後（自治の発達、教育の變遷、公共建物、神社、寺院、史蹟名勝、先賢遺芳）附録の諸編を更に細節してある。口絵や挿入寫真・実測図・古文書の引用の多い点で、資する所が多い。（昭和廿九、三、十、朝来村郷土史会刊、洋A五判、二〇八頁、三〇〇円）